PRESS RELEASE

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

令和３年４月５日

産学共創活動「岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」2021 年 4 月期 共創活動パートナー募集開始

～企業と大学が共に考え、ビジョンを形成し、学内活動でマッチングを実施。
次の時代に新たな価値を提供できる新規事業創出（0→1）と既存事業育成（1→10）を目指す～

国立大学法人岡山大学（本部：岡山市北区、学長：槇野博史）は、**「岡山から世界に新たな価値を創造し続ける SDGs 推進研究大学」**を掲げ、研究力強化・産学共創加速の分野において「世界的研究拠点形成と SDGs を共通言語に戦略的かつ組織的産学共創のエコシステム構築」を進めています。2019 年 6 月には**「岡山大学オープンイノベーション機構」**（略称：岡大 OI 機構）を設置し、戦略的・組織的産学共創の強化から社会実装の加速を目指しています。

岡大 OI 機構の取組のひとつに、企業と大学の担当者がタッグを組み、共に考え、ビジョンを形成し、学内活動を通じてマッチングを行い、プロジェクトを創り上げていく産学共創活動のひとつ**「岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」（略称：岡大 OI チャレンジ）**を実施しています。

岡大 OI チャレンジを通じて、新しいビジョン形成や企業ニーズと大学シーズの掘り起こし、予想しない新知見の獲得などから既存事業育成（1→10）だけではなく、新規事業創出（0→1）においても容易に取り組める「共創の場」を手にすることができます。

多くの企業で新年度となり、新入社員が入社するこの時期、新入社員に対する SDGs 教育やそのビジネスマネジメントを学ぶよい機会ともなるかと思います。

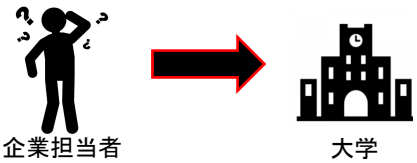
今回、2021 年 4 月期の岡大 OI チャレンジの共創活動パートナーを募集することになりました。ご関心のある企業・団体などのみなさまのお問い合わせを心よりお待ちしています。

■はじめに

企業における新規・既存事業において大学は重要なステークホルダーであり、その密な関係は事業のみならず、研究・イノベーション人材の育成などの面においても重要な点です。ただ、対象となる大学と繋がりがない、知り合いが少ないなどのために積極的に接触を持ちにくいことがあります。特にスタートアップやベンチャー、中小企業などは「大学は敷居が高い」と感じる“壁”があり、何から準備をすればいいのか、どこに何を聞けばいいのかなど、なかなか大学にアプローチがしにくいなどの点があります。

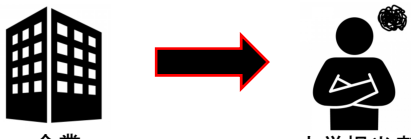
さらに大企業などの新規事業担当者の方も、さまざまなシンポジウムやセミナー、展示会などに出かけ、情報取集を行ったとしても、それが「次につながる」ということがなかなかないことが多いと思います。また新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染流行で、これまでの企業戦略や事業形態ではままならず、新たなビジョン形成や事業創造が強く求められている時代でもあり、そのビジョンには国連の「SDGs（持続可能な開発目標）」などのフレーズが多いです。

＜企業の視点＞



・どこの誰に聞けばいいのか、大学の制度もよくわからない。
・自社の新規事業などのビジョン形成自体うまく行かないので、外部の知恵が欲しい。
・相手に抱える課題などがうまく伝わらない。
・大学内で調査・営業活動は NG　など

＜大学の視点＞



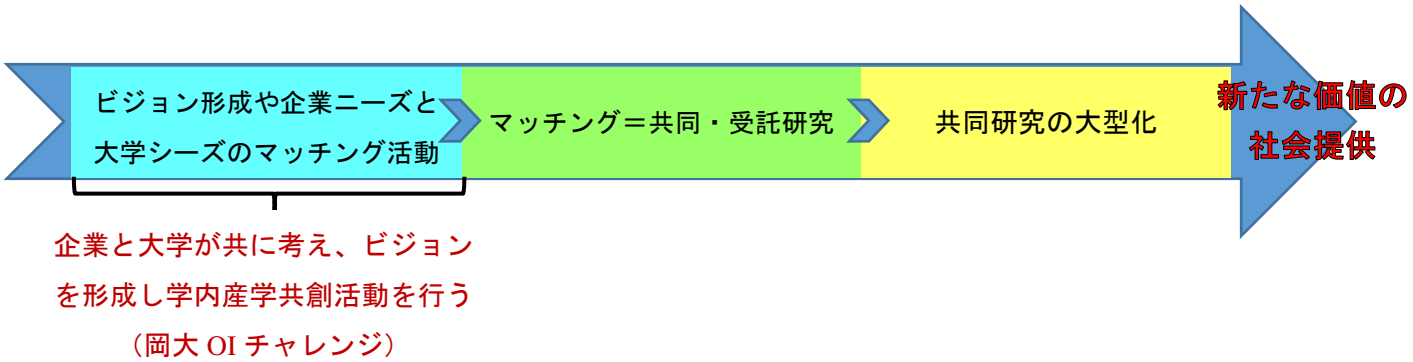
・問い合わせの具体的内容などがわからない。
・学内研究者のシーズを隅々までリアルタイムには把握できない。
・さまざまな産学官出身者が大勢おり、合意形成やコンサルティングなどの業務も得意なのに、その強みが活かせていない　など

他方、大学は研究力強化やイノベーション創出のために企業と連携し、共同・受託研究などを盛んに行うことを欲しており、そのための活動を精力的に行っています。ただ、企業の求めるニーズを十分に把握しているわけではなく、強いては企業が求めていない“シーズの押売り”や“研究者の押売り”になることもあります。また、企業などから「このようなシーズはありますか？」、「この分野の研究開発に強い先生は誰ですか？」などの問い合わせに対して、海外拠点を含む数多くいる学内研究者とそのシーズを事細かく、かつリアルタイムに把握しているわけではないため、うまくマッチングしないこともあります。さらに多くの学問分野や産学官出身者が集まる大学という組織は、合意形成やコンサルティングに秀でていますが、この得意で強みある能力を企業支援や共創活動に十分に役立てられていない点もあります。

■岡山大学オープンイノベーションチャレンジ（岡大 OI チャレンジ）とは？

＜概要＞

大学に対して課題をうまく伝達できない点や大学内調査・営業活動の NG などを無くし、また大学に数多くある産学・人材育成制度などを明確に企業に提示することで、企業と大学の担当者がタッグを組んで共にプロジェクトを創り上げて活動する「産学共創活動」のひとつです。産学共創活動における、「ビジョン形成・マッチング活動」→「マッチング（共同・受託研究）」→「共同研究の大型化」の行程の中で、岡大 OI チャレンジは入口となる「ビジョン形成・マッチング活動」の領域を学内産学共創活動で強化する、これまでにない新しい取組です。



例えば企業が既存事業育成（1→10）などを行う際、大学のあらゆるシーズを探索しますが、これまでは大学担当者が提示したシーズを企業担当者が照らし合わせる「仲人のお見合い形式」のようなもので、うまく行かないこともありました。また企業の新規事業創出（0→1）を模索する際は、明確な企業側のビジョンやニーズが固まっていない時もあり、その際は大学や研究者らにどのようにアプローチすればよいのか悩みます。

岡大 OI チャレンジでは、ビジョン形成とニーズとシーズのマッチングからどのような新たな価値を生み出し、社会に提供できるのかなどの「共に創り出す（共創）」を起点に置き、企業と大学の担当者がユニットを結成し、タッグを組んで**「学内活動（学内産学共創活動）」**を行います。

まずは共にビジョン形成を行い、プロジェクトを作り上げ、その中で「企業→研究者」、「研究者→企業」の双方からの課題や案などの提示・検討を行う**「共創ピッチ」**を開催、よりよい産学共創を生み出します。

特にビジョン形成を行う際、コンサルティング企業に多額の経費を支払ったり、自社リソースのみで時間を掛けて調査したりという形が多かったですが、多様な学術領域の最新の研究を行う教員を有し、かつ産学官出身者が大勢いる大学組織と共にビジョン形成を実施することで自社のビジョンや事業戦略を客観的に捉えることができます。またこれまで企業は勝手に大学内で調査や営業活動を行うことができませんでした。大学担当者と共に学内活動を行う**「共創の場」**を得ることで、より多くの研究者との出会いや新たな知見の発見などに結びつき、事業運営などにも大いに役立ちます。

＜岡大 OI チャレンジのメリット＞

〇企業側メリット

・新規事業や SDGs など、これまでにない取組を実施するにあたり、自社リソースだけではなく、大学という多種多様な人的・物的リソースを活用することができる。
・企業ニーズ内容を的確に大学担当者、研究者に伝えられる。
・学内産学共創活動の共創ピッチでは研究者提案で企業側が予想しない新知見の獲得などが可能。
・既存事業育成（1→10）と新規事業創出（0→1）の双方で利用できる。
・最新の研究者や多様な産学官出身の大学人らと「共に考える」ことで、自社リソースだけでは思いつかない、得ることのできない新たな思考や発見、繋がりなどを得ることができ、社員の人材・キャリア育成にも大いに役立つ。　など

〇大学側メリット

・企業ニーズと大学シーズの掘り起こしができる。
・研究者のチャンス増 ＋「営業」意識増。共創ピッチでの提案で企業側が予想しない新知見があった場合、当初予定していた企業ニーズ以外での新たな共同・受託研究への道が開ける。
・企業側の様々な担当（営業、研究、事業部、企画部等）と人的交流が構築できる。　など

＜岡山大学オープンイノベーションチャレンジの具体的な流れ＞

学内産学共創活動期間の目安：数ヵ月～半年以内

①企業担当者が岡山大学オープンイノベーション機構へお申し込み [1)]
お申込み先 e-mail：ura-info@okayama-u.ac.jp　電話：086-251-7112

②企業担当者と大学担当者（URA やコーディネーターなど）が会談を実施（1～数回）。企業側の案件や岡大 OI チャレンジの内容などの情報を共有。

③企業担当者と大学担当者の間で岡大 OI チャレンジを進める合意を得る。
（合意に伴う契約締結書などを用意する必要ありません）

④企業と大学の担当者で共に岡大 OI チャレンジのプログラム [2)] 形成作業（数回）。ビジョンやミッション、バリューやニーズ＆シーズなどを明確化。

⑤OI チャレンジの学内周知。企業と大学の担当者がユニットを結成しタッグを組んで各学部・大学院、研究所などを巡る「学内産学共創活動」を実施。

⑥秘密保持のもと「企業→研究者」、「研究者→企業」の双方から課題や案などを提示し、検討する「共創ピッチ」[3)] を開催。（学内活動で巡る部署毎に開催）

新しい取組 これまでにない

⑦共創ピッチで Good な案件を個別に議論。企業と大学の担当者と研究者の三者で共創ピッチ内容を④で明確化した内容などに沿わせていく。

⑧企業と大学の担当者と研究者の三者で合意を得る。
（合意に伴う契約締結書（例：共同研究契約など）を作成します）

⑨事業を開始。
（大学担当者が伴走して研究者の活動などをマネジメントします）

【岡大 OI チャレンジの料金について】
試行的な面を考慮して、企業側からの料金は徴収しません。活動に伴う企業側活動費（社員の本学への出張費や共創ピッチでの「企業→研究者」資料作成費など）はご負担して頂きます。また来年度以降の岡大 OI チャレンジ本格運用のため、本年度実施した取組についてのご意見伺いやアンケート調査などのご協力を頂くことがあります。

■補足

1）お申込み先のオープンイノベーション機構は、「岡山大学研究推進機構」の業務も担当しておりますので、同機構職員などが対応しています。また、本学東京オフィスにも職員が駐在していますので、関東圏の企業などの方は同オフィスにご連絡を頂いても大丈夫です。

＜岡山大学東京オフィス＞

108-0023　東京都港区芝浦 3-3-6 キャンパス・イノベーションセンター（CIC）6 階
601 号室　岡山大学東京オフィス　佐藤法仁宛

e-mail：norito-satoh@okayama-u.ac.jp　　電話：03-6225-2905

最寄駅：JR 山手線・京浜東北線 田町駅東口（芝浦口）から徒歩 1 分
都営地下鉄浅草線・三田線　三田駅（A4 出口）から徒歩 5 分

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/alumni/satellite_office.html

2）プログラム名は、「〇企業名〇－岡山大学オープンイノベーションチャレンジ」（Open Innovation Challenge for Okayama University & 〇企業英名〇 Co., Ltd.）となる予定です。なお、プログラムを水面下（世間に対して非公表）で動かしたいという企業側の意向がある場合、実施期間中はそのように取り扱います。

3）共創ピッチは、秘密保持のもと学内限定・非公開で開催します。

4）既に他の企業等と進めている岡大 OI チャレンジとは、情報の漏洩や企業同士が出会わないなどの配慮を十分に行います。

＜お問い合わせ＞
岡山大学オープンイノベーション機構　統括クリエイティブマネージャー
（大学院医歯薬学総合研究科　教授）　神川邦久
（電話番号）086-235-7019
（メール）　kkamikawa@okayama-u.ac.jp

岡山大学　東京オフィス　副理事（研究・産学共創担当）・URA　佐藤法仁
（電話番号）03-6225-2905　　（FAX番号）03-6225-2906
（メール）norito-satoh@okayama-u.ac.jp

Japan. Committed to SDGs　岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS　9 産業と技術革新の基盤をつくろう

岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。